

## 平成24年全国町村長大会 町村への応援メッセージ

全国町村長大会、誠におめでとうございます。初めてお招きを頂きましたが、会場は熱気に溢れ、この熱気が、町や村と日本を支えているのだな、ということ、大変強く感じました。私も負けぬように、都会に住む、まち・むらの応援団の一員として、一言、言葉を掛けさせていただきます。

先ほど、ご紹介頂きましたように、私は20数年前、NHKの旅番組をスタートにして、あちらこちらの町や村を訪ねて参りました。とれたての人参を頬張りながら、「え、野菜ってこんなに甘いんですか？」と言うと、嬉しそうに目を細めながら、「わしの作る野菜は日本一じゃ！」と、誇らしげに語る農家のおじさん。自分の家の周りや、町のあちらこちらを花々で飾り、訪れる人たちを温かく迎えてくれた女将さん。一滴の湧水が大河となる源流の里で、いつも山の顔を見ながら、山の微妙な変化も見守りながらこの山を守っているのだと、そこに住みながらその土地を守る大切さを教えてくれた林業家の方。人知れず、奥山で崩れた山を元に戻す治山工事。そして、下流に洪水が起きないように、砂防工事をしている人々。一見手つかずの自然のように見える、そういったものも、しっかりと人の手で、自然を守り、そして下流の私達の生活の安全を守ってくれているんだということも教わりました。町や村を訪ねている間に、どれだけ多くの事を学んだ事でしょう。

そういった町や村の、いくつかがここ数年、大震災や大きな災害で被災を受けたまま、まだまだ立ち直りきれないと聞いています。勿論、何回もお邪魔もいたしました。一日も早く、皆さんたちが元気に復興される事を、心からお祈りしております。

私は地方の都市部で生まれたものですから、農山漁村とは縁がありませんでした。でも、仕事を通じて町や村と出会うことで、今まで考えもしなかった、私達が当たり前で暮らしているその生活が、この空気や、水や、そして野菜や、色んなものが町や村のおかげで成り立っているのだということ、改めて、いや、初めてと言っていいかもしれません、気がつく事が出来ました。

でも私達の周りを見ていると、本当はふるさととは田舎のはずなのに、都会に暮らしているうちに、その重要性を忘れてしまったり、元々気付かないで暮らしている人達も大勢いることに気がつきました。そこで私は仕事柄、旅を通じて、そういったまち・むらの大切さを伝えていきたいと感じたのです。不特定多数の大きな観光地のある所は、多くの人たちは、有名な観光地に行って、「まあ、きれいな景色だね」と言って帰っていただくのですが、そのような中で、町や村の事に目を向ける、何かメニューが創れないとか、農林水産業そのものがテーマとなるグリーンツーリズムなどでは、その生活を壊さない範囲の適正な規模の人たちを受け入れて、しっかりとそのまち・むらの意義を、丁寧に伝えていく

こと、そんなことを提案する活動をしてきました。何年か経つうちに、大きく人々の意識も旅の形も変わってきたのではないかと思います。どんな優れた本や、どんな素晴らしい教科書よりも、町や村は素晴らしい先生であり、私達の素晴らしい親であるのだと、私は思っています。

最近こんなことがありました。みんなと食べ物について話をしていた時のことですが、ある男性の子供の小学校で『自分たちが食べる食べ物は、自分たちで作るべきか、それとも外国から買えばいいのか。』というテーマで子供達に議論をさせたそうです。最近の小学校はなかなか良いテーマで議論をするものだな、と思ったのですが、実は違っていました。その結論は、自分たちの食べるものは自分たちで作らなくても、外国から安く買えばすむことだということになったということです。そしてその父親は、「いや、学校でそういう事を教えているそうだから、外国から買えばいいんじゃない？」このやり取りを聞いて、私は愕然としました。今や私達の世代、そして先生たちも、そういったことをきちんと教えることが出来なくなっているのだと。そういう事を教えることが出来るのは、町や村の皆さん達だけなのかもしれない、と思うようになっていきます。

最近、都会の子どもたちや大人たちを、積極的に受け入れてくれている町や村が出てきました。でもその最初は、例えば農家民宿にしても、全く見ず知らずの子ども達を自分の家に泊めるわけにはいかないと、殆どが反対だったそうです。でも、首長さんや役場の方や、その担当者の方たちが、力強く農家一軒一軒を回りながら、将来、自分たちの町や村や、そして日本の為にも、そうやって都会の人たちと交わっていくことが、将来に繋がっていくことなんだと、力強く、根強く説得していった御陰で、一軒、二軒、三軒協力する御宅が出来て、都会の人たちを受け入れてくれるようになりました。町や村では当たり前前の事が、都会の子ども達にとっては全てが発見と驚きで、目を輝かせて、「へえ、こんなに素晴らしいの！」「こんなに美味しいの！」と反応しました。それを見て、更に元気が付いたのは、町や村のお年寄り達だったそうです。そうして交流していくことは、町の人達や村の人達にとっても、大きな変化をもたらしていったのだと思います。今、自然体験がほとんどなく、都会の中だけで暮らしている人々の考え方や生き方を、町や村は大きく変えることが出来ると思います。その為には、町や村の皆さん達の大きな支えが必要となってくると思います。

こういう動きの中で、都会の人たちの環境意識や、町や村に対する思いは、大きく変わってきました。例えば、あるNPOが取り組んでいる、「緑のふるさと協力隊」。これは、今や国策となって、「地域おこし協力隊」と発展し、若者達が町や村へ出向く事になりました。おそらく受け入れている町や村の方もいらっしゃると思います。また、森林ボランティアという形で、都会に住む人達が、山の仕事や間伐の為に山へ出向くようになりました。

た。その人たちの想いは本当に熱くて、私達も頭が下がる位なのですけれども、その都会の応援団が力を発揮する為には、その土地に根ざして、しっかりと暮らしている方たちと手を組んで活動する必要があります。そこに住んで頂かなければ、応援団の力は発揮出来ないのです。そこに住むこと、つまりは、仕事、生活が出来る事、収入があるという事になるかと思えます。確かに、企業誘致などの雇用の確保という手段はありますが、なんといっても地元根付いた農林水産業を、しっかりと立て直していくことだと思っています。手段は色々あって、大規模化で競争力を付けていくことも一つでしょう。でもそれが叶わない土地柄の所もあります。でも、小規模でも、自家用の田畑や、森を守っていくのも、しっかりと町を支える大きな力となっています。美しい田園風景を守る大きな要素なのです。そういったことを皆で考えながら、農林水産業の再生に力を尽くしていきたいと思っています。

今各地で、地域おこしや農林水産業の活性化に先進的に取り組んでいるところがでてきます。その方法や目的は様々ありますが、共通しているのは、みんなで汗を掻いて、知恵を出して、そして最終的には、自分達にきちっとした収入が返ってくるという事です。それを成し遂げた町や村の、おじいちゃんもおばあちゃんも、目がきらきらとして本当に元気です。町や村に、I T S、情報通信技術は似合わないとか、なかなか普及しないと言っていますが、そういった地域では、お年寄りの人たちも、I T Sを駆使して頑張っておられます。そういった、元気を出すような方策を、一つでも多くの町や村で実現して頂きたいと思えます。

さて、私は山に行く事が多いものですから、どうしても森林に目がいくことが多いのですけれど、林業が衰退して、山が荒れて、と言われて久しくなりました。でも国を挙げた国民運動が広がってきた成果で、さらに森林吸収源という大変な位置づけを得た御陰で、森林整備も急速に進み、間伐も進んできたことは、大変結構なことだと思います。ただ、間伐が進んでそれで終わりでは、健全な山が戻ったとは言えません。元気な農山漁村が戻ってきたとは言えません。木を育てて切って、それが売れて使われ、また次の植林へ繋いでいく。このような循環が実現しなくては、本当の山の元気が戻ってきたとは言えない訳です。

「木を使う」ことに関しては国民運動や、公共建築物に国産材を使うという法律もでき、意識も高まってきました。私の周りでも、消防長さんが、自分の所の庁舎を建て直すのに国産材を使おうと検討しました。ある役場の庁舎を、国産材で建て直そうと検討しました。でも、検討した結果、あまりに高すぎて実現しなかったのです。折角の想いが実現しなかった例をいくつも聞いています。今や日本の木材は、世界で一番安くなってしまいました。でも、私達消費者の手元に届く頃には、とても高くなっているのです。都会では、国産材は高いと思ってる人が未だ大半です。このミスマッチをなんとかしていかなければいけません。これは、森林整備が急ピッチで進み過ぎたことにより、出口の所で上手く需要と結

びつかなかったため、値段が下がってしまったというのが現状のようですけれども、今、それこそ国を挙げて、住宅やバイオマスなどでの木の使い方、それから山と川下の間を繋いで木がスムーズに流れていくような仕組みの工夫を精一杯行っています。それは道半ばで、まだまだ山にお金がきちっと返っていかない状態ですが、間違いなくそういった方向へ、山の将来が向っていることは間違いのないと思いますし、それを実現しなければ、日本の将来はないと私は思っています。

間伐をする時に、「集約化」と言っても、森林所有者がまとまって間伐をする効率的な作業のあり方、木材を搬出するコストや流通コストの削減、その需要と供給をどうマッチングさせていくかというマネジメントの在り方などの取り組みが、今、先進地域では着々と進んでいますが、まだまだ町・村全体に広がっているとは言えません。これを実現するためには、首長さんや役場の方、森林組合、それから森林所有者、多くの皆さん達の、汗や、工夫や、努力や、知恵、そして時間が必要です。近い将来の、そういった山の経済の活性化の為に、今からは是非皆さま方の町や村でも、そういった山の元気に向けての取り組みを進めて頂きたいと強く願っております。

町や村は、小規模だから、大変なご苦労もあるかと思いますが、一つ気持ちがまとまれば非常に動きやすい規模ではないかと思えます。そういう中で、町や村の首長さんや役場の皆さん達のリーダーシップは、極めて大きな存在です。今日のこの会場の熱気のように、是非とも町や村の皆さん達をぐいぐいと引っ張って、目がきらきらと輝くような町や村の人たちを育てていって頂きたいと思えますし、そういった元気が都会の私達を何か変えてくれるのではと期待しています。私は残念ながら、権力も、お金もありません。でも旗を振ることや、都市の皆に訴えかける応援ならできます。町や村は今や931と本当に数が減ってしまいましたが、この日本の大切な原点である宝を、町や村の皆さん達がそこにしっかりと住んで守り抜き、そして都会に住む人たちも手を取り合ってその宝を守っていきたいと思えます。政治は、変わっても変わらなくても、町や村の価値や意義は変わることはないと私は信じております。是非とも町や村の皆さんと私達で、元気で輝く町や村を、後世の大勢の子どもたちに向けて残していきたいと思えます。頑張っていきましょう。

平成24年11月21日

青山佳世